

—鳥取県—

鳥取砂丘コナン空港ターミナルビルのリニューアルオープンについて

1. はじめに

1967年に開港した鳥取空港は、鳥取市街地から車で約15分に位置し、鳥取県を代表する観光地「鳥取砂丘」と北栄町出身の漫画家・青山剛昌氏の人気作品「名探偵コナン」が持つ全国的な知名度を生かし、2014年に「鳥取砂丘コナン空港」の愛称がつけられた。

県では、搭乗者の利便性向上や一般来場者の誘客促進を目的として、ターミナルビルの改修工事を行い、昨年7月28日にリニューアルオープンしたので、新しくなった空港の見どころを紹介する。



鳥取砂丘コナン空港 ターミナルビル

2. 空港リニューアルの概要

このたびの改修工事では、これまで別々だった国内線と国際線の各ターミナルビルの間を増築・一体化を行い、従前の約4倍に増えたテナントスペースには、地元発の人気飲食店やコナングッズのショップなど新たに4店舗がオープン。国内線ターミナルの改修（鳥取空港ビル株式会社が実施）も合わせて行われ、搭乗待合室や到着ロビーも拡大されるなど、来訪者にとってより楽しく、より快適に過ごせる空間に生まれ変わった。

名探偵コナンの装飾では、到着ロビーに青山先生の直筆メッセージが刻まれた新たなシンボルオブジェを設置し到着客を出迎えるとともに、「喫茶ポアロ」の再現展示が拡充され、コナンファンに大人気の「安室透」のカラーオブジェが新たに登場するなど、空港全体がファンにはたまらないスポットとなっている。

また、民間の知恵とノウハウによる機動的な空港運営を目指して、昨年7月1日から地方管理空港では3例目となるコンセッション方式による民営化を開始したところである。



シンボルオブジェ(コナン君と蘭ちゃんが皆さんをお迎え)



喫茶ポアロの再現展示(毛利小五郎に加え、安室透が新たに登場)

3. リニューアルによる効果

リニューアル以降、県内外のお客様に「名探偵コナンの世界」や「新しくなったテナントでの飲食や買い物」など、新たな観光施設として生まれ変わった空港を楽しんで頂いており、リニューアルから1月末までの約6か月間で、来場者（搭乗者数を除く）は約30万人（前年同期の約13倍）と予想を大きく上回る成果を挙げている。特に、名探偵コナンを目的とした県外来訪者が大幅に増加、SNSでも大きな反響があり、海外からのお客様にも高い評価を得ている。

4. おわりに

鳥取砂丘コナン空港では、このリニューアルを契機に、民間運営によるサービスの向上や、星空観測会やクリスマスイベント、ひなまつりコンサートなど従前には無かった多彩なイベントが開催されるなど、民営化による効果が徐々に始めている。生まれ変わった鳥取砂丘コナン空港へ是非お越しく下さい！

(鳥取県 県土整備部 空港港湾課 谷 和佳)